



昭和中だより ハートフル昭和

<http://www.city.akishima.ed.jp/~showa/>



令和6年5月7日

第2号

昭島市立昭和中学校
校長 渡部 尚

徳を積める人に

新年度がスタートして、1か月が過ぎました。「ハートフル昭和 ～あたたかさがあふれる昭和中学校～」のスローガンの下、生徒や教職員の皆さんのあたたかい言葉や行動に触れ、気持ちよく過ごすことができています。年度始めすぐに行われた生徒会主催のお花見や、新入生歓迎会での委員会や部活動の工夫を凝らした紹介は、生徒たちのチームワーク、あたたかさ、パワーを感じました。

また、先日の保護者会では、多くの保護者の皆様にお越しいただきました。本当にありがとうございます。



さて、ハートフル昭和という言葉を考えていく中で、「徳を積む」という言葉を思い浮かべました。これは、「よい行いを重ねていくことにより、必ず後から報われる」という意味で使われますが、これは単純なようで、なかなか奥深いと感じます。

「徳」には、「陽徳（ようとく）」と「陰徳（いんとく）」があると言われています。陽徳は、人に直接感謝されるような、陽の目を浴びる徳のことです。一方、陰徳は人に知られず、見返りや礼を求めない自然な行動での徳を指します。一般的に「徳を積む」という言葉は、後者の陰徳を指すことが多いようです。

「陽徳」と「陰徳」。どちらの徳も素晴らしいのですが、特に「陰徳」の行動を目にしたとき、立場や年齢を超え、尊敬の念を抱きます。自分自身を振り返っても、そうした行動はなかなかできていないと感じるからです。以前、混雑した電車にご年配の方が乗っていた時、中学生らしき男の子がそっと体を支え、降車時に周りの人に道を開けるよう働きかけていた様子を目にしました。まさに陰徳の行動なのですが、きっと彼にとっては当たり前の、自然なことなのでしょう。

陽徳であれ陰徳であれ、人のために行動できることは、とても素晴らしいことです。そして、間違いなく言えることは、そういう人は感謝され、信頼されるということです。

生徒も教職員も、昭和中学校をより一層ハートフルにするために、周りの人たちの思いやり、人のためになる言葉や行動を重ねていく。それが皆を幸せな気持ちにし、結果的に「徳を積む」ことにつながるのでしょうか。そんな人たちであふれる昭和中学校でありたいと思っています。



昭和中学校イメージキャラクター
「ハートフル」